第25回

石川TOYP大賞

トイップ

青年版県民栄誉賞

石川TOYP大賞は地域が誇れる若者を表彰して25年
みらいを築く若い力を応援しています

JCI 公益社団法人 日本青年会議所 北陸信越地区 石川ブロック協議会

後 援：石川県　石川県議会　石川県教育委員会　石川県商工会議所連合会　石川県商工会連合会　北陸放送株式会社　北國新聞社
協 賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社　アオイ建設株式会社　浅井克樹税理士事務所　池田建設工業株式会社　片岸木工所
小松商事株式会社　株式会社小松土木通商　有限会社坂井商事　株式会社シモアラ　有限会社白石メンテナンス
株式会社セキサンピーシー　株式会社測機ビジネス　大和証券株式会社　有限会社タナカ企画　株式会社旅くらぶ四季彩
有限会社ツクダ自動車　株式会社辻さく　株式会社トスマク　株式会社豊商　医療法人社団ながしまクリニック
株式会社日進自動車　株式会社ホクエツ北陸　北陸電力株式会社　株式会社北國銀行　株式会社まえじゅう漆器
有限会社みやもと　株式会社室戸鉄工所　焼肉茶屋恵比須　有限会社友星自動車　ゆのくに天祥（五十音順）
協 力：石川TOYP倶楽部

第25回

石川TOYP大賞

（トイップ）

青年版県民栄誉賞

式次第

日時：2014年7月5日(土) 13:00～15:00
場所：石川県産業展示館2号館
司会：石川TOYP委員会　高田　樹春
　　北陸放送アナウンサー　前原　智子

1. オープニングビデオ
2. 開会宣言
3. 国歌斉唱
4. 公益社団法人日本青年会議所 北陸信越地区 石川ブロック協議会 会長 挨拶　会長　江口　充
5. 石川TOYP倶楽部会長 挨拶　会長　小阪　栄進
6. 来賓紹介
7. 来賓挨拶　祝辞
8. 第25回石川TOYP大賞　事業経過説明　石川TOYP委員会委員長　金本　基春
9. 第25回石川TOYP大賞　授賞式典　大賞表彰
   - 受賞者1）本田　雅弘
   - 受賞者2）村山　智一
   - 受賞者3）北野　晃成
   - 受賞者4）北村　和義
   - 受賞者5）我戸　正幸
   - 石川TOYP倶楽部特別賞）遠藤　聖大
10. 閉会挨拶　会務担当副会長　中村　謙吾
11. 閉会宣言

CONTENTS　目次

- **主催者ごあいさつ …… 2**
  （公社）日本青年会議所 北陸信越地区石川ブロック協議会会長　江口　充
  石川 TOYP 倶楽部会長　小阪　栄進
- **ごあいさつ …… 3**
  石川県知事　谷本　正憲 氏
  石川県議会議長　吉崎　吉規 氏
  石川県商工会議所連合会会頭　深山　彬 氏
  石川県商工会連合会会長　田上　好道 氏
  北國新聞社会長　飛田　秀一 氏
  北陸放送社長　京村　英二 氏
- **選考委員紹介 …… 4**
- **石川 TOYP 倶楽部からの紹介… 6**
- **石川 TOYP 倶楽部特別賞… 7**
- **受賞者紹介 …… 8**
- **歴代受賞者紹介 ……18**

主催者ごあいさつ

公益社団法人日本青年会議所 北陸信越地区
石川ブロック協議会会長

江口　充

石川の多くの傑出した若者たちを発掘してきた石川TOYP大賞は今年で25年目を迎えることができました。これも今日まで石川TOYP大賞にご尽力頂いたTOYP倶楽部や127名にのぼるTOYP大賞受賞者の皆様、協賛企業の皆様、そして歴代の委員長をはじめ多くの関係者の皆様のお支えを頂いた賜物でございます。そして本年も5名の受賞者を迎え、盛大に受賞式典を開催できることに主催者を代表して御礼を申し上げます。

さて、現代の日本社会では国内外ともに様々な問題が起き、目まぐるしい環境の変化が起きています。そして地域によっては変化についていくことができず様々な問題を抱え、未来への希望を持つことができない若者が増えています。しかし一方で地域の問題に対して積極果敢な姿勢で、挑戦し続けている若者もいます。このように志高く未来を見据え県内各地で活動し、未だに光が当たらずにいる傑出した若者を発掘し、県内各地に活動の様子を発信することがTOYP大賞の大きな役割だと考えております。今年、大賞に選ばれた5名もこれを機会にこれからの石川の明るい豊かな未来のためにご活躍されることはもちろんのこと、石川から日本、そして世界へと飛躍することを期待しております。

最後に、本年度石川TOYP大賞にエントリー頂いた多くの皆様、ご尽力頂いた関係者の皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

石川TOYP倶楽部会長

小阪栄進

1990年度からスタートしたTOYP大賞は、今年度で25回目を迎えました。過去の受賞者は127名を数え、受賞後も幅広い分野でさらに活動の輪を広げ、それぞれの地域で様々な貢献をしています。

今回も新たに5名が受賞となりました。おめでとうございます。人材発掘に大きな貢献を果たしてきたこの石川TOYP大賞の主催者である日本青年会議所北陸信越地区石川ブロック協議会及び協賛各社に心から感謝と御礼を申し上げます。

ごあいさつ

石川県知事

谷 本 正 憲

栄えある石川TOYP大賞2014を受賞されました皆様に心よりお祝い申し上げます。
今回受賞されました皆様は、夢や希望に向かって日々努力し、地域の発展に大きく貢献されている、まさに石川の未来を担う方々ばかりです。
今回の受賞を契機として、今後より一層ご活躍されますことを心からご期待申し上げます。
また、本賞の運営にご尽力されました公益社団法人日本青年会議所石川ブロック協議会をはじめ関係の皆様に深く敬意を表しましてご挨拶といたします。

石川県議会議長

吉 﨑 吉 規

第25回石川TOYP大賞を受賞されました皆様に心からお祝い申し上げます。
石川TOYP事業は、若者の無限の可能性を未来につなげていく運動であり、今回、受賞されました皆様は、それぞれの分野で地域の発展に大きく貢献されています。
今回の受賞を機に、更なる地域の活力となり、新しい社会をリードしていただくことを心から期待申し上げます。
また、本賞の運営にご尽力されました公益社団法人日本青年会議所北陸信越地区石川ブロック協議会のますますのご発展と関係の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、挨拶といたします。

石川県商工会議所連合会会頭

深 山　　彬

第25回石川TOYP大賞の授賞式にあたり、栄えある賞を受賞されました皆様方には、心よりお祝い申し上げます。
本賞は各分野における人材の発掘、育成に多大なる貢献をしており、今後、益々グローカルな視野をもって、社会に貢献される多くの若者が輩出されるようご期待を申し上げます。
受賞されました皆様方には、今後、一層ご精進をされ、さらなる躍進を遂げられますよう祈念申し上げますとともに、本賞の運営にご尽力された公益社団法人日本青年会議所北陸信越地区石川ブロック協議会並びに関係各位に深く敬意を表しご挨拶と致します。

石川県商工会連合会会長

田 上 好 道

第25回TOYP大賞を受賞された皆様に心からお祝いを申し上げます。
皆様方のそれぞれの分野における日々のご努力と、地域の発展への多大なご貢献に、心から敬意を表しますとともに深く感謝を申し上げます。
地域が元気になるためには、皆様のような若い人たちの力が不可欠であります。今後とも研鑽を重ねていただき、ますますのご活躍をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

北國新聞社会長

飛 田 秀 一

第25回石川TOYP大賞を受賞された皆様に心よりお祝い申し上げます。
本日受賞された皆様には、さらに高い志を掲げ、ふるさと愛を持って、この地の文化、産業の発展に、一層の研鑽を積まれることを期待しています。
また、本賞の運営にご尽力されている公益社団法人日本青年会議所北陸信越地区石川ブロック協議会に深く敬意を表します。
受賞された皆様ならにびに関係各位のご活躍とご健勝、本賞のますますの発展をお祈りいたします。

北陸放送社長

京 村 英 二

第25回石川TOYP大賞2014の表彰式にあたり、栄えある大賞を受けられた皆様方に心からお祝いを申し上げます。今回受賞された方々の活動、精神こそ、地域の自立ひいては日本の進むべき方向性を示しており、多くの若者に挑戦と夢を持つ大切さを与えることと存じます。
私共、北陸放送ではテレビ・ラジオを通して大賞に対し、県民の関心と理解を深めるようお手伝いしていきたいと存じます。最後になりましたが、日本青年会議所北陸信越地区石川ブロック協議会のさらなるご隆盛を祈念し、ご挨拶と致します。

第25回 石川TOYP大賞　選考委員 紹介

石川県知事
谷 本 正 憲

●昭和20年4月16日／兵庫県生まれ●昭和43年3月／京都大学法学部卒業●同年／自治省入省●昭和60年7月／自治省大臣官房企画室調査官●平成2年4月／自治省行政局公務員部公務員第二課長●平成2年7月／自治省財政局交付税課長●平成3年7月／自治省財政局公営企業第一課長●平成3年12月／石川県副知事●平成6年3月／石川県知事

石川県商工会議所連合会会頭
深 山　　彬

●昭和16年3月30日／金沢市生まれ●昭和38年3月／金沢大学法文学部卒業●同年4月1日／株式会社北國銀行入行●平成8年6月27日／株式会社北國銀行常務取締役営業統括部長兼企画部長●平成8年6月28日／株式会社北國銀行常務取締役営業統括部長●平成9年10月12日／株式会社北國銀行常務取締役営業本部長代行兼営業統括本部長●平成9年10月27日／株式会社北國銀行　代表取締役専務･営業本部長●平成10年12月1日／株式会社北國銀行代表取締役頭取●平成18年6月29日／株式会社北國銀行代表取締役会長●平成25年6月27日／株式会社北國銀行相談役●平成18年7月21日／金沢商工会議所会頭、石川県商工会議所連合会会頭、現在に至る

石川県商工会連合会会長
田 上 好 道

●昭和15年12月7日生まれ●昭和34年3月／小松城南高等学校卒業●昭和40年1月／鉄工業創業●昭和44年7月／株式会社田上鉄工所に改組、代表取締役社長就任●平成2年10月／株式会社タガミ･イーエクスに社名変更●平成21年7月／代表取締役会長就任●平成21年5月／能美市商工会長就任●平成23年6月／石川県商工会連合会長就任●平成24年6月／全国商工会連合会理事就任

北陸放送社長
京 村 英 二

●昭和28年7月31日生まれ●昭和49年3月／石川県立水産高等学校無線通信専攻科卒業●昭和49年4月／北陸放送入社●平成13年1月／北陸放送技術部長●平成15年7月／北陸放送技術局長兼技術部長●平成16年1月／北陸放送放送技術センター長●平成17年6月／北陸放送取締役放送技術センター長●平成17年7月／北陸放送取締役技術局長●平成18年6月／金沢ケーブルテレビネット株式会社取締役（現任）●平成21年6月／株式会社北陸アイティエス代表取締役社長（現任）●平成23年6月／北陸放送取締役放送管理本部長兼技術局長●平成25年6月／常務取締役放送管理本部長兼技術局長●平成26年4月／北陸放送常務取締役放送管理本部長●平成26年4月／北陸放送代表取締役社長（現任）

石川TOYP倶楽部会長
小 阪 栄 進

●1945年金沢市生まれ／金沢大学教育学部大学院修士課程修了●1969年より金沢市立小学校教諭●1989年／石川県教育委員会社会教育主事●1990年／第1回TOYP大賞受賞●1996年／夕日寺小学校校長●1999年／森山町小学校校長●2003年／石川TOYP倶楽部会長●石川県性教育研究会会長●石川陸上競技会常務理事●日本陸上競技連盟終身1種公認審判員●日本学校保健学会評議員他●金沢市議会議員

石川TOYP倶楽部監事
山 本 博 男

●東京大学大学院教育学研究科博士課程:バイオメカニクス（身体運動学）専攻●1982年／Rotary International Competitive Scholar●1990年／第1回TOYP大賞受賞●1995年／文部科学省在外研究員New York University●1991～2007年／綱引競技の科学（『綱引マガジン』:ベースボールマガジン社）●2009年NHK教育TV『すイエんサー:綱引に勝ちたい』●日本体育協会綱引連盟理事●石川県体育協会理事●RI2610国際ロータリー学友会会長●2012年NHKエンタープライズ『**AKB48DVD:綱引きに必ず勝ちた～い!!**』の巻●2013年NHK第一放送『ラジラボ:運動会の科学』●2014年金沢大学同窓会教育顧問

（傑出した若者たち）

The Outstanding Young Persons

TOYPとは

TOYP（The Outstanding Young Persons「傑出した若者たち」）は、米国青年会議所1930～31年度会頭ダーウッド・ハウズ氏により創設。彼は“Americans Young Men”（アメリカの青年）と題する年報を出版し、その年の模範的主導者12人の業績を特筆し、「傑出した人物」を表彰することを着想。その後1938年に米国青年会議所によってTOYA（Ten Outstanding Young Americans）で正式に採用され、1952年以降は、各国の青年会議所もそれぞれのTOYPプログラムを設けました。これまでの各国TOYP大賞受賞者には、オーソン・ウエルズ、ジョン・F・ケネディー、ヘンリー・キッシンジャー、ベニグノ・アキノなど、多数の著名人が含まれ、そのほとんどは、国内で有名になる以前の40歳前に受賞。1981年になると国際青年会議所がTOYPプログラムを正式に採用、世界の青年の模範的資質を発揮した18歳から40歳までの個人を10名以内選んで栄誉を授けています。1987年には青年会議所のない国も含め世界各国の参加が認められています。

石川県内でのTOYPのはじまり

石川県では、1990年より（社）金沢青年会議所が「金沢TOYP大賞」の運動を始め、7名の若者を顕彰しました。1994年には「傑出した若者たち」の発掘を金沢というまちだけでなく、石川県全域に拡げたいという思いから（社）日本青年会議所北陸信越地区石川ブロック協議会に事業を移管し、「石川TOYP大賞」として運動を開始しました。そのことにより、TOYP運動は石川の地に更に根付く基盤が整備されました。また、2005年より式典へ一般市民にも参加いただけるようになり市民とともに受賞の栄誉を称えるようになりました。

石川TOYP倶楽部

石川TOYP倶楽部はTOYP事業で受賞された方をメンバーとし、青年会議所との運営によって石川県内にて活動をしております。また、石川TOYP倶楽部では、2004年にはアメリカメジャーリーグで活躍する松井秀喜選手や2006年には女優の田中美里さんに特別賞を特別賞を授与しています。

第25回 石川TOYP大賞事業の流れ

候補者募集期間
広報活動
4月1日
候補者募集活動（~5月12日）

選考期間
5月
一次・二次選考

6月16日
最終選考

7月5日
授賞式典

1990年金沢TOYP大賞として産声を上げた石川TOYP大賞は今年で25回を数えます。過去、127名もの県内各地で活躍する若者を讃え、活動を発信し、石川県の活性化に繋げてまいりました。しかしながら、石川TOYP大賞事業への認知度は高いとは言えず、この素晴らしい事業がさらなる進化を遂げるためにも認知度向上は必須の課題です。第25回石川TOYP大賞事業を実施するにあたり、石川TOYP大賞の認知度をいかに高めるかという点に注力してまいりました。

地域への波及効果を期待し、候補者の発掘を行った結果、28名もの各地で頑張る若者からエントリーをいただきました。三次にわたる選考では、更なる石川の活性化へと繋がるよう慎重な審査の結果、本年度も5名の方を石川TOYP大賞受賞者として、本日ここに授賞式典を執り行い、表彰させていただき、石川の更なる発展に繋げるべく、受賞者の活動を広く発信してまいります。

活気に満ち溢れた石川の創造へと繋がるよう多くのつながりから輪を広げ、明るい豊かな石川の実現のために、これからも続く石川TOYP大賞事業へ深いご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人日本青年会議所
北陸信越地区石川ブロック協議会
石川TOYP委員会委員長
金 本 基 春

第25回 石川TOYP大賞　エントリーリスト（28名）

浅尾　仁［人財育成］	池島　直人［九谷焼］	井前　本康［スポーツ］	宇宙人サンダーくん［地域振興］	裏　貴大［農　業］
岡田由起子［地産地消］	我戸　正幸［山中漆器］	北野　晃成［地域振興］	北村　和義［九谷焼］	小寺　美和［地域振興］
小　乃　葉［伝統芸能］	坂上　俊陽［仏　師］	櫻井　浩一［地域振興］	生水　豊樹［農　業］	高田利栄子［環境保全］
田中　瑛子［山中漆器］	土橋　伸吾［スポーツ］	中島　正士［地域振興］	中西　隼一［地域振興］	西田　健吾［芸　能］
原　深雪［農　業］	本田　雅弘［農　業］	三國　浩平［音楽家］	村山　智一［地域振興］	谷内　雄亮［スポーツ］
山口敬士朗［地域振興］	山根　大徳［地域振興］	綿谷　真之［ダンス］		

石川TOYP倶楽部からの紹介

第25回
石川TOYP大賞授賞式典
アトラクション

・オランダ生まれのアメリカ人
・小松市大杉町在住
・金城大学短期大学部教授
・大杉ミュージカルシアター主宰
・小学校でミュージカルを通して英語教育をおこなう
・1997年石川TOYP大賞受賞
・2003年石川地域づくり大賞受賞
・2004年地域づくり総務大臣表彰
・2004年より7年間(社)加賀青年会議所『きたまえ塾』におけるミュージカルの総合演出家を務める

'97 石川TOYP大賞受賞 ガート．T．ウエスタハウト 氏

第25回
石川TOYP大賞受賞者記念品

●1962年　石川県江沼郡山中町に生まれる●1980年　漆芸家　吉田華正氏に師事●1985年　加賀市別所町にて独立、漆工房 T.M Japan Art Studio　スタジオ設立●1997年　県内 大阪 横浜等でグループ展出品●1998年　県立大聖寺実業高等学校　情報デザイン科非常勤講師就任(2000年まで三年間)●2000年　伝統工芸士認定(通商産業大臣認定)/東京　青山　スペースカレイドにて　技･心･彩 展　出品●2001年　加賀市大聖寺 ギャラリー萩にて 個展●2002年　小松 大和 六階アートサロンにて 個展/石川TOYP大賞　受賞●2003年　小松 大和(二度目)六階アートサロンにて 個展●2004年　大阪 和紙クラブにて 個展/カナダ バンクーバー ソルトスプリングアイラ ンドにて展示会出品　蒔絵実演行う　カナダの木工芸作家とのコラボレート作品発表●2005年　カナダ バンクーバー(二度目) 展示会出品　蒔絵実演を行う●2006年日本橋三越本店　六階美術工芸サロンにて●2011年　加賀市大聖寺 工芸空間フゾンにて 個展●2013年　高崎スズラン百貨店 地下一階美術工芸サロンにて 個展●2014年高崎スズラン百貨店(二度目)美術工藝サロンにて 個展/ジャパンブランド時計文字盤コンテスト 準グランプリ受賞

個展入選･受賞歴

石川の伝統工芸展		入選
日本伝統漆芸展		入選
国際デザインコンペティション		入選
淡交ビエンナーレ茶道美術公募展		入選
兼六園茶会工芸作品公募展	奨励賞受賞	
	金沢商工会議所会頭賞受賞	
山中漆器創作蒔絵展	石川県知事賞	五回(最高賞)
	永久保存買上	七回
	他　金賞多数受賞	

'02 石川TOYP大賞受賞
松山　武司 氏

石川TOYP倶楽部特別賞

遠藤聖大

●プロフィール

□遠藤　聖大　（えんどう しょうた）
□穴水町出身
　1990年10月19日生　23歳

2012年　全日本相撲選手権大会優勝（アマチュア横綱）
　国体相撲成年個人の部Ａ優勝（国体横綱）
2013年2月　追手風部屋入門
　3月場所　初土俵（幕下付出）
　7月場所　新十両・十両優勝
　9月場所　新入幕
2014年1月場所　敢闘賞受賞
　5月場所　初金星（4日目鶴竜）

「農業の未来を魅せる」

本田　雅弘

Masahiro Honda

《現在の活動内容の詳細と、その活動に携わるようになった経緯》

千葉県での大学時代に『食』に関わる仕事に就きたいと考えていた際に千葉県農事組合法人和郷園を知り、アルバイトとして働き、ビジネスとしての農業の可能性もさることながら生産者の方々が30代と若く皆が生き生きとしている姿を見て農業を志した。現在はJA小松市に大玉トマトとキュウリを出荷し、本田農園としては中玉トマト、四川キュウリ、イチゴ、アスパラガスを県内外の百貨店・スーパー・レストラン・ホテル等に直販している。

《ふるさと石川への貢献》

『おいしい野菜づくりは土づくりから』をモットーに県内外の百貨店･スーパー･レストラン･ホテル等へ石川野菜の魅力をお伝えしている。また今年度よりJA小松市の春トマト部会長に就任し、若手生産者らとともにJA活動を盛り上げて産地の向上を図っている。

《周りの人や地域への影響》

小松市近郊の小学校や幼稚園ででた食物残さからつくられた　堆肥を圃場に投入し土づくりに活用している。そこでできた野菜を児童たちの給食の食材に使用していただき、収穫体験を通じて『食育』や『地域循環型農業』といったかたちで農業を身近に感じてもらえるよう取り組んでいる。

《ふるさといしかわを活性化するための創意工夫》

JA小松市はトマトカレー等の加工品を開発し、6次産業化のモデルとなり「石川県産」「小松市産」を県内外にPRしている。

今年度より私を含めJA小松市トマト部会の青年部ではコマツからの支援事業であるアグリウェイプロジェクトの一環としてNECのICT技術を導入し環境データを解析し、トマトの栽培技術を向上させ産地力の強化に努めている。

《新たな挑戦》

本田農園としては極めて皮が薄く、フルーツ感覚で味わえる『華小町』という品種の中玉トマトを『かがやきトマト』としてブランド化させる。
また、本田農園･JA小松市を通じ企業･団体との支援や協力を受けながら、新しい販路の拡大･後継者育成･産地PRと持続可能な農業へ向けて取り組んでいる。

《夢･目標》

新規就農者として石川の地で農業を始めた。
技術もない、実績もない、資金もない中、多くの方の助けを得て現在があると思っている。

地域の方をはじめ、いろんな方に私の作った野菜を食べていただき、多くの方においしいと言ってもらい、農業界の『世界のホンダ』になり、お世話になった方々へ恩返しすることが目標であり夢である。

●プロフィール

□本田　雅弘（ほんだ　まさひろ）
□1978年1月20日生　36歳
□活動地域／小松市
□分野／農業

2003年　千葉県農事組合法人和郷園に勤務していたが、実家である小松市で新規就農する。
2007年　JA小松市こだわりトマト研究会会長に就任
2008年　JA小松市春キュウリ部会長に就任
　　JA小松市青壮年部国府支部支部長に就任
2013年　日本野菜ソムリエサミット　キュウリ購入部門全国4位入賞
　　東京大学先端科学技術研究センター共同開発創出支援事業スマートアグリシステム栽培指導担当に就任
2014年　JA小松市春トマト部会長に就任

「そもそも ものことは 地域からはじまる」

村山　智一

Tomokazu Murayama

《現在の活動内容の詳細と、その活動に携わるようになった経緯》

平成 13 年に穴水町は旭ヶ丘地区で醸造用ブドウ栽培がスタートしました。そのプロジェクトは耕作放棄地をブドウ畑へと活用し、新しい地域産業へ発展させるという目標がありました。偶然にも祖父が残してくれた栗畑で自らも栽培に携わる機会を頂きました。少しずつ経験を 積む中で、能登での一次産業が持つ可能性の大きさに気づきはじめ、景観を観光資源に活かし、子供たちを対象とした農業体験や食育に取り組むようになりました。次世代を意識した取り組みを通して、地域に根差した農業を目指しています。

《ふるさと石川への貢献》

持続可能な農業経営と同時に効果的な地域貢献を意識して、農業に軸足を置いた観光への活用・教育分野との連携・商品開発など様々な取り組みを行なっています。具体的にはグリーンツーリズムへの推進や自然体験の受け入れ、企業研修などですが、それら取り組みを通して地域企画連携により、年間2万人の方々に足を運んでいただくまでになりました。

《周りの人や地域への影響》

最初にブドウの木が植えられてから13年になります。少しずつではありますがブドウ畑も広がり、四季折々に見せる美しさは新しい能登の風景としてなじんできたのではないかと考えます。

ねむっていた土地を生産拠点として生かし、観光資源にもなり、雇用にもつながっている状況を見ても、地域と良い関係を築けているのではないかと思います。

《ふるさといしかわを活性化するための創意工夫》

これまで、自社・県内農家と連携により農産物を加工した自社ブランド「HITOTSU」や、能登 の里山里海カードゲーム「NOT:0」(ノトゼロ)等の、地域資源を活用した企画・開発に携わり、幅広い分野からPRさせていただきました。今年度は、能登での取り組みに共感いただき、弊社への就職を機に、2名の移住者が穴水町に誕生しました。今度も交流・定住人口拡大に貢献するために、現在、空き家をリフォームした「泊まれる・遊べる醸造所」を準備しています。ここでも、積極的に交流の機会を創出し、地域が持つ様々な課題解決に繋がるよう努めていきます。

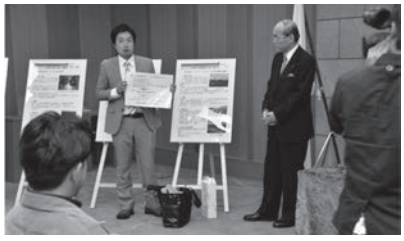
《新たな挑戦》

今年度から県内の企業や大学と連携して循環型農業を本格化させようと取り組みました。地面から上の努力に加え、地面から下の見えない世界にも努力をしたいと考えました。生ごみを堆肥化する機械を提供いただき、循環型農業を実現させたいと思います。

これまでのツーリズムの実績を生かし、積極的にインバウンドに取り組んでいきたいと思います。

《夢・目標》

これまでの実績を活かし、子供たちの国際交流を実現させたいと考えています。子供たちが 世界を意識する事で、将来への大きな展望に繋がる様な活動を心掛けたいと考えます。また、能登での一次産業に大きな可能性を感じています。ブドウ畑を拡大し、世界を代表する様な産地へと発展させたいと思っています。



●プロフィール

□村山　智一（むらやま　ともかず）
□1976年7月20日生　37歳
□活動地域／穴水町
□分野／地域振興・環境保全

2003年 株式会社山下建設入社、代表取締役就任（後に株式会社Okuruskyに商号変更）
2009年 株式会社高田の農業部門リーダーとして同社の農業経営改善計画認定（認定農業者）に携わる
日本野菜ソムリエ協会野菜ソムリエ取得、小学生を対象とした食育・農業体験開始
2011年 株式会社Okuruskyが穴水町指定管理施設「ふるさと体験村四季の丘」管理者に認定
2012年 石川県グリーン・ツーリズム研究会　理事就任（現在に至る）
2013年 生物多様性カードゲーム「NOT:O」が完成

「綺麗な柴山潟を未来に」

北野　晃成

Akinori Kitano

《現在の活動内容の詳細と、その活動に携わるようになった経緯》

私が子供の頃、片山津温泉は観光客で街中が毎日賑っていました。祖父は遊船業を柴山潟で営んでいました。当時は柴山潟は旅館に囲まれ、住民は柴山潟を一望することはほぼ不可能でした。今では廃業旅館も取り壊され、住民も柴山潟を一望できる環境にあります。ただ湖畔から眺めるのではなく、船に乗って柴山潟から見る白山、夜の街、潟を一望していただきたく、数名で観光事業の一環として2009年かっぱ堂を立ち上げ、遊覧屋形船などの運航を始めました。

《ふるさと石川への貢献》

石川県の、特に加賀市の大きな産業である観光業は衰退の一途をたどっています。県内各所にある温泉地は非常に厳しい環境の中でそれぞれの特色を活かし、いかにして誘客を図るかが求められています。片山津温泉には柴山潟という他に類を見ない恵まれた観光資源がありながら、活かしきれていなかったと思います。ごみの散乱などで活かせなかった現実もあります。

観光資源としての柴山潟を蘇らせること。また、しじみの放流などでラムサール条約登録湿地にもなっている柴山潟の生態系を少しでも取り戻すことで観光、環境の両面から石川県の発展に貢献できます。

《周りの人や地域への影響》

柴山潟遊覧船の復活による地元の観光産業への貢献を果たしています。また、柴山潟清掃やシジミの放流では、地元の片山津地域の人だけでなく、上流域の動橋青年会などの青年組織を巻き込み、流域が一丸となって柴山潟の美化意識を持つよう努めています。柴山潟でのごみ収集では回を重ねる毎にごみが減っています。少しずつ柴山潟をきれいにという思いが伝わっている表れだと思います。

《ふるさといしかわを活性化するための創意工夫》

石川県の、特に加賀市の大きな産業である観光業は衰退の一途をたどっています。県内各所にある温泉地は非常に厳しい環境の中でそれぞれの特色を活かし、いかにして誘客を図るかが求められています。片山津温泉には柴山潟という他に類を見ない恵まれた観光資源がありながら、活かしきれていなかったと思います。ごみの散乱などで活かせなかった現実もあります。

遊覧船の運航を通じた観光資源としての柴山潟の活用だけでなく、地域の子供と一緒になってのシジミの放流や柴山潟でのごみ収集など、柴山潟の環境を取り戻す活動を通じて、大人・子供を問わず、地域の人に環境を大切にすることの大事さを少しでも伝えていこうと努めています。

《新たな挑戦・夢・目標》

観光資源として柴山潟の活用がさらに必要です。新たにオートキャンプ場（アウトドア泊）を作り、インドア泊とアウトドア泊の二分割化した宿泊施設を目標に掲げ、水質浄化し、水生植物が溢れ、野鳥の集う柴山潟を目指し、風土を守り、大人から子供まで一緒に自然に触れ合い、潟で遊べる日を夢見ています。そして、子や孫たちに綺麗な柴山潟を引き継ぎたいと思っています。

●プロフィール

□北野　晃成（きたの　あきのり）
□1976年9月28日生　37歳
□活動地域／加賀市
□分野／地域振興・環境保全

2003年　片山津温泉あすなろ会入会
2004年　加賀市消防団　片山津分団（旧片山津第二分団）入団
2005年　片山津温泉NPO法人ラスコ　特別会員加入
2009年　片山津温泉かっぱ堂立ち上げ
2010年　片山津観光協会　地域活性委員会理事就任

「石川の伝統工芸を世界のカッコイイに」

北村　和義

Kazuyoshi Kitamura

《現在の活動内容の詳細と、その活動に携わるようになった経緯》

大学を卒業後、九谷焼技術研修所に入って初めて九谷焼を始めました。やりはじめてみて、なんておもしろいものだと感じた事が九谷焼作家のはじまりです。活動内容は全国での個展活動や展覧会への出展。様々な企業、施設と九谷焼とのコラボレーションをしています。

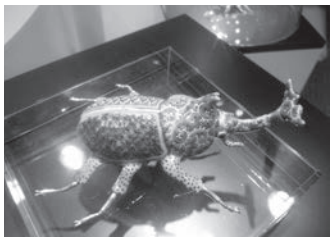
現在進行中のものはユニクロやコマツのダンプ九谷焼（サイエンスヒルズ展示予定）など。他産地との工芸品のコラボレーションや九谷焼で付け爪やジュエリーを作りファッションでも九谷焼が活躍できないか挑戦中。

《ふるさと石川への貢献》

石川県を代表する工芸品「九谷焼」は今や日本の陶芸のトップブランドです。他に類をみない装飾と独自の技法は世界にも通用すると思っています。様々な企業とのコラボや九谷焼の新しい挑戦が石川県をもPR出来る事と思い取り組んでおります。

《周りの人や地域への影響》

九谷焼は分業が主な制作方法です。九谷焼のカブトムシ一つ作るにしても、生地屋・型屋・金属作家など様々な所に仕事が出てきます。伝統工芸が地域の地場産業として成立するためにも九谷焼の新たな取り組みは必要不可欠なことです。



また、地域の美術館や公共機関に展示して頂き、話題作りや集客の効果も大きいです。

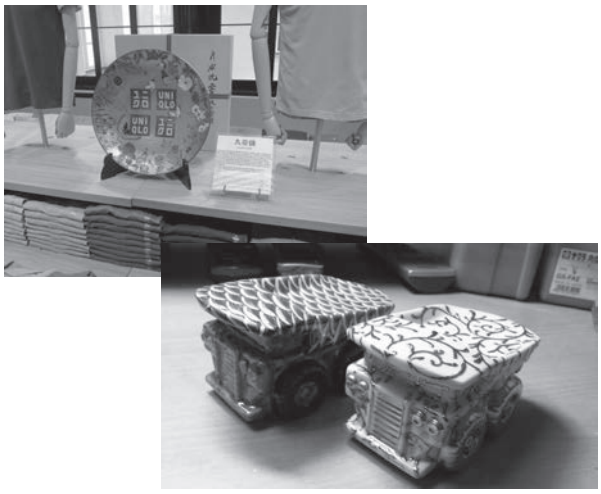
《ふるさといしかわを活性化するための創意工夫》

昆虫シリーズや企業とのコラボで一番大切にしていることは、こういうものこそ手を抜かず焼物好きな人が見ても感心するような物造りをしています。

普段、九谷焼に興味がない人でも、見せ方を変えるだけで足を止め見てもらった時に感動を与えられことが出来れば「石川県九谷焼」というものをよるアピール出来ると思っています。

《新たな挑戦》

アパレル業界とのコラボやオリジナル商品の制作、ジェリー系など今年は取り組んでいます。ユニクロの仕事などは大化けしそうな予感もしますし、九谷焼を知らない若い層にアピーしていくことが未来の九谷焼ユーザーを造っていくことになると思います。



《夢・目標》

これからはジャパンクタニの再興もしていきたく、積極的に海外にも作品を出していきたいです。

そして九谷焼の意匠がおしゃれやかっこいいと言われるように物づくりしていこうと思います。

●プロフィール

□北村　和義（きたむら　かずよし）
□1974年9月30日生　39歳
□活動地域／小松市
□分野／伝統工芸（九谷焼）

1998年　九谷焼技術研修所卒業後、自宅でもある九谷焼竹隆窯に入る
2004年　日展初出品　初入選。以降連続入選
2006年　松井秀喜ベースボールミュージアムオリジナル九谷焼制作
2007年　NHK、新日本紀行で取り上げられる
2009年　桂米朝文化勲章受賞記念品制作
2010年　現代美術展最高賞受賞。
　　タカラトミーチョロQ30周年記念九谷焼チョロQ制作。
2011年　MADFOOT10周年記念九谷焼スニーカー制作。
　　奈良・薬師寺に作品収蔵。
2012年　奈良・薬師寺24年度記念品制作。九谷焼付け爪発表。
　　富山県高岡市・高岡銅器と九谷焼のコラボ「九谷焼グッピー」発表
2013年　名古屋JR高島屋「北村和義展」開催。日本テレビ「スッキリ」に作品を取り上げられ出演。日展・黒彩「ストゥーパ」入選。

「山中漆器の誇る轆轤挽きを次代へ、世界へ」

我戸　正幸

Masayuki Gato

《現在の活動内容の詳細と、その活動に携わるようになった経緯》

東京の問屋で家業を継ぐべく修行中に、山中漆器の木地挽きの技術の素晴らしさを知りました。しかし同時にそのような技術を持ちながら、職人が高齢化、減少していく山中の現状を知り、その技術を最大限に引き出し、生かす商品を開発、プロデュースしています。国内だけではなく、海外へも新たな販路を開拓しています。

《ふるさと石川への貢献》

450年間受け継がれてきた山中漆器の伝統。我々は今まさに今後につなげる歴史を作っていると自覚なければなりません。地域が持つ素晴らしい財産を山中漆器で表現し、更に広めることで伝承問題、販促開拓など様々な問題を解決する糸口になればと考えています。

《周りの人や地域への影響》

山中漆器といえば、轆轤挽き。450年もの間、連綿と受け継がれてきたその技術にデザインという付加価値をつけ山中漆器にしかできないプロダクトを提案することで、山中漆器の魅力を全世界に周知させることに繋がっていくと思います。同時に職方の意識向上にもつながると考えます。

《ふるさといしかわを活性化するための創意工夫》

連綿と受け継がれる職方の技とデザイナーが提案する新鮮なシルエット。変わらないものと変化し続けるものを掛け合わせることにより、時代を経ても美しいものを作りたいと考えています。海外へも作品を発表、展示を積極的に行うことで、山中漆器の魅力を発信しています。

《新たな挑戦》

受け継がれてきた技術を職人と更に磨き、高めていきたいと思います。また伝統技術を体感していただけるような子供用食器の開発もしていますが、組合青年部の活動として地域の子どもへの漆器の啓蒙活動を行っています。絵本「ワンちゃんのおわん」を製作、配布したり、毎年小学校へ出向き山中漆器の授業を行っています。

《夢・目標》

伝統を守り時の流れに寄り添う「不易流行」の漆器によって伝統工芸は継承されていくと信じ提案し続けたいと思います。この魅力をたくさんの人に知ってもらい、またその価値を高め続けていきたいと思っています。

●プロフィール

□我戸　正幸（がと　まさゆき）
□1975年7月18日生　38歳
□活動地域／加賀市
□分野／伝統工芸（山中漆器）

2010年　グッドデザイン賞　中小企業長官賞
　　ISHIKAWA DESIGN AWARD 2010
2011年　DESIGN PLUS（独）
　　第46回全国漆器展　経済産業大臣賞
2012年　第51回日本クラフト展　招待審査員賞
　　THE GERMAN DESIGN AWARD SILVER（独）

KANAZAWA TOYP大賞歴代受賞者

主催／(社)金沢青年会議所

'90 1990年度

坂本　秋央（工芸）

金沢の伝統工芸である二俣の紙衣帯作家として、昭和54年以来活動を続け、その紙衣の帯を200年ぶりに再現した。「もてなしの心」と題して、紙衣・箸置きなど和紙の新しい商品展開に力を入れている。

小阪　栄進（教育）

地域から発生し、より楽しく行なえるスポーツの場の育成を目指すスポーツクラブの結成や各種大会の運営に努力した活動が認められる。また、小・中・高校生への性教育に取組み積極的な活動を展開している。

富永　和雅（工芸）

漆織りにおける漆糸の製作に新手法を用い、漆染めの袖等を作成し、東京・京都・ヨーロッパなどで高い評価を受けている。現在この伝統的素材を現代生活に生かすことを主眼に、作品づくりに取り組んでいる。

近藤　　守（福祉）

養護学校を卒業した青年障害者に生き甲斐を持たせてやりたいという願いを“ひろびろ共同作業所”という手作りの障害者福祉施設を作る運動を通して実現した。新しい福祉のニューリーダーとして期待されている。

天沼　裕子（文芸音楽芸能）

アンサンブル金沢の常任指揮者就任、サンフランシスコ大地震被災チャリティーコンサート開催等その音楽活動が認められる。金沢の持つ伝統文化との融合を成功させ、音楽文化の向上に貢献している。

鍛冶　玲子（スポーツ）

1981年～89年の全日本トランポリン競技選手権大会9連覇など国内外で数多くの実績を残した。また、トランポリン運動に関する研究発表、ジュニア選手の指導などトランポリン界におけるその活動が認められている。

山本　博男（学術）

科学的トレーニング理論による一流選手の強化や、運動を苦手とする人達のトレーニング法の開発でその活動が認められる。加えて各国へのスポーツ留学生を派遣し、若い世代の育成に努力している。

'91 1991年度

西沢　和江（学術）

音楽的文化条件が十分とは言えない地方都市に育ちながらロン＝ティボー国際ヴァイオリンコンクール3位入賞を果たす。若者を勇気づけ、明るい希望の光を投げかける彼女の努力と成果は高い評価を受けている。

中川　　衛（工芸）

「加賀象嵌」の繊細な技法を使った女性コンパクトの装飾、地金となる銅合金を壁材として壁面装飾を手がけるなど加賀藩制時代からの伝統工芸を新分野に生かす。“手の技の仕事”という伝統を受け継いでいる。

越田　　潔（学術）

精巣（こう丸）癌の腫瘍マーカーについての研究成果が評価され、スウェーデン王位カロリンスカ研究所博士号を授与される。現在大学病院医師として地域医療に貢献しつつ、癌研究を行ない、日本癌学会等で活躍している。

松井　大倫（国際関係）

地域ボランティアから世界的な難民救済、災害地の救援活動へとサービング活動の手を拡げ、そのリーダーとして国際交流の輪作りに大きく貢献している。世界の人々の生活を知り、国際的な視野を拡げようと努力している。

香田　裕泰（文化）

西ドイツ・コーブレンツ市立歌劇場専属第1ソロ・バスとして活躍する。帰国後、金沢放送合唱団の常任指揮者として団員指導に当たるとともに、市内高校の合唱団等の歌唱指導も行い金沢の合唱界に貢献している。

藤岡　良憲（学術）

科学捜査研究室員という法医鑑定業務の中で、微量の血痕試料から血液型識別をするという世界的発見により、現在の複雑巧妙化している刑事事件解決に大いに貢献した。警察活動を通しての住み良い街づくりに貢献している。

'92 1992年度

岩田　隆光（福祉）

ろうあ者の抱えるコミュニケーション・情報問題に深く関わりながら交流を続け、手話通訳者の養成や聴覚障害者を中心とした身体障害者全体の「パソコン通信」の普及に取り組んでいる。

扇田　克也（芸術）

1991年世界現代ガラス展で、日本人初のグランプリを受賞し、ガラス工芸作家として認められる。その後、卯辰山工芸工房にて活動を続け、金沢におけるガラス工芸発展の礎を築き、地域文化・芸術振興に貢献している。

大竹　茂樹（学術）

中心静脈栄養法を全国に先駆けて白血病患者に応用し、支持療法として確立した。また、これまで出産が困難とされた突発性血小板減少性紫斑病患者の出産を可能にするなど血液疾患の治療に熱意を燃やしている。

中村　昌樹（スポーツ）

“ほほえみの石川大会”に県バスケットボール部主将として出場するなど、障害を克服しスポーツに打ち込んでいる障害者と健常者が共に助け合って生活していくことの大切さを、その体験を語ることで教えている。

安川　洋生（学術）

プラスミド（細菌に寄生する遺伝子）に関する研究で、世界的な注目を浴びる論文発表を行い、感染症克服への新しい指針を示した。細菌感染による病気や死の克服のためのさらなる活動が期待されている。

'93 1993年度

三国　千秋（環境）

「石川環境ネットワーク」の事務局として、リーダー的役割を果たしている。自然に優しい暮らし方やまちづくりを目的とし、地域住民の声を反映させた形での地域活動の活性化を目指し活動を行っている。

今井由三代（地域交流）

女性らしい瑞々しい感性を持ち、「おーぷんてんぷる」活動を始め、メモリアルキルトの運動を通して、地域に根ざしながらも世界へとつながるユニークな活動を続けている。

古　　章子（スポーツ）

小学校3年生の時に全国ジュニア大会で優勝し、以降数々の実績を残している。将来、トランポリンを通して地域のスポーツの普及に取り組みたいという夢を描いている。

荒木　　史（学術）

伝統的な金沢表具にたずさわり、地方文化財や市立図書館の絵画や古文書の保存修復に素晴らしい活躍をしている。今後、21世紀の新しい文化財保存修復の科学技術者として、大いに期待されている。

高山　成明（学術）

覚せい剤等の薬物使用者が後を絶たず、大きな社会問題になっている。高感度の分析方法が求められるなかで1000倍の高感度検出に成功。青少年の健全な育成・社会正義の実現に貢献するものと期待されている。

いしかわTOYP大賞歴代受賞者

主催／(社)日本青年会議所　石川ブロック協議会

'94 1994年度

市島　明子（芸術）

作品を製作する傍ら、「石川県観光地域懇話会委員」として、石川の観光PRに取り組む。又、石川県輪島漆芸術研究所で講師を務め後継の育成・指導に当たる。名前も作品も全国、世界に通ずる作家として現在活躍し、高い評価を得、伝統工芸の次世代を担う若者として活躍が期待されている。

番場　睦夫（経済）

農業経営というものにいち早く取り組み、有限会社「ばんば」を設立した。また、「農業経営者」としての経営能力を高めることと地域に貢献できる経営を目指すことを目的に、石川県青年農業会議所を代表発起人として設立した。会員は40才以下の中核的農業者28名である。

高野　誠鮮（その他）

昭和62年に「UFOでまちおこし」を提唱する青年団体ミステリークラブを設立。日本人としてただ一人UFO国際会議に参加。1990年に羽咋で開催されたアジアで初めての「UFO国際シンポジウム」の中心的存在として活動された。これは「UFOのまち羽咋」を全国、世界にアピールする大きな一歩となった。

'95 1995年度

中村　元風（工芸）

九谷焼陶芸家としての活動の他、東京にて「ギャラリー元」という展示スペースのコーディネーターとして県内在住の陶芸家を中心に作品と紹介に努めている。

濱　真奈美（芸術）

1987年、本場オペラ勉強の為、イタリア・ミラノ音楽院に留学。その後ヨーロッパ各地で蝶々夫人役などで公演。ヨーロッパと石川の文化の橋渡し役として、また、県内のオペラ定着に努めている。

二木　大一（環境）

地域の活性化を目指し、商工会青年部に入会。その後、「手取クリーンカーニバル」事業を手掛け、地域の枠をこえた幅広い数々の活性化事業に取り組んでいる。

'96 1996年度

赤尾　順子（文芸）

高校の時より漫画を描き始め、1991年デビュー。1992年より月刊りぼん「赤ずきんチャチャ」連載始まる。現在コミックは発行部数300万冊を超え、ビデオ化もされている。現在も地元で一人で執筆作業を行っているが、これからも子供たちに夢を与えるような漫画を描き、日本を代表する漫画家になると期待される。

大畑　孝二（環境）

大学卒業と同時に(財)日本野鳥の会の職員として活動することとなる。北海道の自然観察館に出向し、来館者への案内や説明をするかたわら、児童図書「ぼくは野鳥のレンジャーだ」などを執筆。現在は加賀市鴨池観察館にチーフレンジャーとして派遣され、環境問題に明るい道を開くことを期待される。

北ヨシアキ（学術）

1982年にクップ・ドゥ・ラ・ビィル・ドゥ・パリ賞を受賞。94年にはワインの本場ボルドー地方の高級ワイン「シャトー・オ・バルダン」のラベルに採用される。現在、版画家として活動する傍ら、写真家としてパリコレ・ミラノコレなど日本に写真を通じて様々な情報を送ってくれている。昨年、パリ在住の県人会を発足し、その代表をつとめるなど今後のますますの活動が期待される。

'97 1997年度

谷内　直樹（芸術）

1990年ムードン国立音楽院のディプロマ取得。ローマにてマヌエル・バルエロ・ウィーン、デビット・ラッセルに学ぶ。地元金沢では史跡コンサート、輪島市文化会館での演奏に出演。現在、海外演奏の夢を持って演奏活動を行っている。

高僧みちえ（ハーブコーディネーター）

1992年国民文化祭の「香りグッズ全国コンクール」のコーディネーターとして参加。1995年より七尾商工会が主催する「香り」のイベントに非会員という立場でコーディネーターとして奔走。自然体で「香り」の愛好者の輪を広げる活動で「香り文化」ハーブの魅力を全国に発信するものと期待される。

松浦　雅子（映画監督）

1992年より、フリーの演出家として活躍し、江戸川乱歩原作「人でなしの恋」が初監督作品となる。女性の人材が少ない邦画界で監督デビューし、今後女性の視点でウェルメイドな力ある映画を作っていく映画監督として素晴らしい作品が期待される。

堀　　直子（文化）

県内で唯一の市民ミュージカル劇団「リトルパインシアター」を89年1月に旗揚げ、毎年上演しているオリジナルミュージカルは14回を数え、観客動員数は1万人を超える。団員約80名を率いて創造的文化の活性化に情熱を注ぐ。

地下　朱美（文化）

和太鼓の基礎を習ううちに、自分の人生を「太鼓とバチに掛けてみたい」という思いにかられ、1986年に和太鼓グループ「炎太鼓」を結成。石川県松任市を中心に北は北海道、南は九州、そして海外で活動を続けている。それらの活動は和太鼓文化の継承に大きな貢献を果たし、日本の太鼓を世界に伝える伝導者として動き始めている。

山下　晴子（芸術）

金沢美術工芸大学卒業後、渡仏し、PSZEKERY氏に師事。帰国後、北国女流美術展優秀賞、現代美術展最高賞等数々の賞を受賞される。彫刻の本場ヨーロッパでは「ハルコ・ヤマシタ」の名で浸透しており、石川から世界へとネットワークを持ち活躍中である。

水橋文美江（文芸）

劇作家、演出家、女優として活動。1991年にシナリオライターとしてデビュー。その後、「さよならをもう一度」「夏子の酒」など全国放送の人気ドラマのシナリオを手がける。ヒット作「妹よ」では主人公を能登出身の少女と設定するなど、地元石川を愛する気持ちが伝わってくる。

米林　格栄（農業）

農業に従事し、伝統加賀野菜作りに取り組む。農法として有機栽培、低農薬を実践し、とかく敬遠されがちな農業のやり方そのものの改革に取り組んでいる。

吉田　　昇（芸術）

1985年、29歳のとき「'85プレ石彫シンポジウムin播磨」に参加。ヨーロッパに渡り、旧ユーゴ、オーストリア、ノルウェー、フランスなど多くの国々で作品を手掛ける。1995年より、故郷七尾において七尾国際石彫シンポジウムを開催し、アーティストというだけでなくプロデューサーとしてもますます活躍。世界の様々な価値観との交流の場を地域に与えることにより、地域に刺激を与えて新しい価値観を生み出すことを目指す。

藤田　三喜（工芸）

自ら技能検定を受験し、技をみがき少しずつ頭角を現し、21才までしか出場できない世界大会で左官としては難しい石コウの部門で日本代表となり、入賞。現在、左官業といわれる仕事が減っている中、全国左官工業連盟が主催する競技会等数多く参加し、日本一を目指す。また、自分自身に全国から指名がかかるような職人になるのが夢。

山下　浩雅（地域交流）

白峰村民の楽しみとされてきた、まつりが廃れていく中で、村民自らの知恵と手による“ことづくり”が大切と感じ、1989年より地域のまつり復活を目指して「雪だるまウィーク」の企画運営総責任者として活躍する。新しい発想と精力的な行動で地域のリーダーとして活躍することが期待される。

ガートT.ウエスタハウト（文芸）

1995年OMT（大杉ミュージカルシアター）を創設。市民参加の創作ミュージカルの企画・運営・作曲・演出を一手に行い、小松市大杉町の旧公民館を改修した“大杉中町劇場”を本拠地とし、オリジナル作品を上演している。また、全国や海外の市民劇団との交流を行い、ますますの活躍が期待される。

いしかわTOYP大賞歴代受賞者

主催／(社)日本青年会議所　石川ブロック協議会

'98 1998年度

門倉美樹子（福祉）

「自分にも何か出来ることがあるかもしれない」という気持ちで手話を学び始め、手話通訳が職業として成り立つ社会環境作りが必要だと訴えている。「全ての人が互いに自然に話し合うようなノーマライゼーション社会になれば…」と言った希望に裏付けされた行動が、我々にも勇気を与え、明るい社会を期待させてくれます。

遠藤　外数（伝統工芸）

伝統ある田鶴浜建具産業界の若き担い手。緻密な組子技術は飛び抜けて素晴らしく、全国的にめずらしい「三つ組み手」という技法を自分のものにし、今までに考えもしない絵画的表現方法での建具製作に成功している。

深山みゆき（工芸）

個性を尊重し、楽しい雰囲気の中で学ぶことに重点をおいた書道の教育指導にあたっている。自らも書道家としての研鑽に励み、1987年「全国書道展」に出品した仮名作品は大賞を受賞し、1996年には欧州芸術文化遺産に認定され、現在はパリの「セルヌスキ美術館」に収蔵されている。また同年、若手としては異例の田鶴浜文化功労賞「芸術文化賞」を受賞した。

三津野真澄（環境）

1990年～1992年、青年海外協力隊員として南米のコロンビア共和国へ。この体験で先進国に暮らす私たちはもっと地球や他の国の人々のことを考えて生きてゆく義務があることを痛感する。現在、理科教諭として環境教育を実践し、同時に環境NGOである「アースディこまつ」のメンバーとして、また会のブレーンとなって活躍。

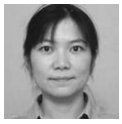
岩坂　勉（地域振興）

音楽が好きで小学生のころからトランペットを吹き始める。県立輪島高校を卒業後、市民に根づいた音楽文化普及・振興を目指し、同校OBを中心に有志を募り輪島吹奏楽団を結成し団長となる。また吹奏楽連盟を発足に導き、現在副理事長も務めている。今後も音楽を通じ「明るさと楽しさのあふれたまち、やすらぎのまち」づくりに貢献し、地域の活性化のリーダーとしてさらに活躍することが期待される。

'99 1999年度

北村　満（ボランティア）

自ら『工房ヒゲキタ』を主催し、星の美しさ、自然の尊さなどの話を織り交ぜた工作教室や星空巡業を展開。環境問題や教育問題が見つめなおされている現代未来において、その根底を助ける意味での活動が期待されている。



葛葉むつみ（国際ボランティア）

「フェアトレードくらぶ金沢」の代表として「公正な商品の取引を通じて、第三世界に住む立場の弱い人たちの自立を支援する」活動を行っています。今後のますますの活動が期待される。

蔵田　紀夫（芸術）

文化都市金沢から世界に向けてヘアー・スタイルを発信するため、世界の理容産業をリードし世界に通じる21世紀の理容師の育成を目的とした『ジャバック』の設立。多くの魅力ある理容師を育成するため『ジャバックカットスクール』も開校。現在は、国際大会日本開催、石川県開催誘致に向けて広く活躍中。

知田　喜博（国際関係）

石川県鶴来町で希少伝統産業でもある加賀獅子頭の製作。現代屈指の“獅子頭”彫刻師で、彫刀の冴え、深厳なる技法、清猛な作風で、鶴来の獅子舞と共に、活躍が期待される。

水野　雅男（まちづくり）

96年大野町商工振興会にアドバイザーとして招かれ、先進地視察やまちづくりのビジョンづくりを行う。97年「もろみ蔵」の活動に参加。96年「輪島市都市計画マスタープラン」に参加。金沢市大野町「醤油の里づくり」を展開。この大野のまちづくりが、県内あるいは全国のまちづくりグループの参考となるように期待している。

山本　孝（環境・先端技術）

中小企業の技術的支援のため研究と指導。平成4年に織物の製造ノウハウを理論的に解析した論文で工学博士を取得。環境に負荷を与えない生分解製品の開発は、プラスチック廃棄問題を解決する一助となるばかりか、県内産業の活性化・新製品開発支援に大きく貢献。今後新しい分野である環境産業の創出と拡大が期待される。

'00 2000年度

有田　明子（国際交流）

フォトジャーナリスト。町や村の歴史編纂や広報活動に協力する一方、言葉を超えた異文化の相互理解に貢献。世界の人々とのコミュニケーションに役立ちたいと意欲的な取り組みをしており、益々の活躍が期待される。

片山　直樹（国際交流）

日本とアルバニアの民間交流の草分け的存在。アルバニア共和国と日本との間で初の全国的民間交流組織「日本・アルバニア協会」を金沢で発足。網膜芽細胞腫に苦しむ子供たちを支援する「ネジールプロジェクト基金」を設立。現地からも

佐原　郁代（福祉）

聴覚障害者への理解を広めようと積極的に活動。「心のバリアフリー」を求めて、テレビや映画に字幕が必要である事を強く呼びかけています。「pipi ピピとべないホタル」や「チンパオ」が字幕付きで上映されました。今後も更なる活動が期待されます。

中田　大輔（スポーツ）

トランポリン選手。2000年のシドニーオリンピック出場。スポンサーがいないため、以前海外遠征費を稼ぐために、昼夜を問わず働くなど非常に苦労をしています。今後も新しい技にチャレンジして更なる活躍が期待されます。

針谷　絹代（工芸）

郷土山中町・山中漆器を今まで以上に魅力ある作品・魅力ある故郷・魅力ある産業になるよう、自らの作品を通じて漆芸の世界の魅力、そして可能性・夢を伝えていくことを大きな課題、目標として活躍中。今後の活動に大いに期待されます。

'01 2001年度

安達伊知郎（まちづくり）

小松市内の工場に働きながら取材活動を続ける。小中学生や若者、高齢者、障害を持つ人たちなど、さまざまな人の意見を取材した情報誌「こまつCLUB」を発行し、市役所・小中学校・病院などに無料配布している。今後、地域の障害者支援の核となる活動が期待される。

板倉　美紀（スポーツ）

再起不能といわれた不慮の事故から奇跡の再起を果たし、事故後わずか七ヶ月で競歩選手として国体石川県予選に優勝。国内トップクラスの選手として競技を続ける一方、壇上に立ち自らの希有な選手人生を中高生に語りかける。有能な指導者としての将来にも期待が持たれる。

太田真佐代（音楽）

ギターの国内三大コンクールのひとつ、第17回スペインギター音楽コンクールで16人中11人が1位に推し優勝。スペイン大使館での演奏では「スペイン人より、スペイン人の魂を持った日本人」と絶賛される。石川県のみならず日本の音楽界に大きな影響を与えることが期待される。

川口　匠（情報）

13歳の時に独自開発したコンピュータソフトウェアーをインターネットで全国発売。その後㈲ネクストジャパンを設立し代表取締役となる。メールソフト「ダチュラ1.5」、画像ソフト等の自社開発商品をインターネット上で全国発売していくなかで、故郷石川の全国発信を目指す。

小谷　一郎（まちづくり）

93年に結成した「能登やなぎだ凧の会」が95年内灘町の「世界の凧の祭典」準優勝、99年には内灘町と大門町の全国大会において最高賞を受賞。2000年には「全国凧上げまつり柳田大会」を開催。凧を通して人と人との交流の輪を広げ、活力ある地域づくりを目指し活動している。

沢野　伸浩（情報・環境）

河北潟の水質浄化を目的とした市民団体「河北潟湖沼研究所」に知識と技術の提供を通じ深く関わる。97年、ナホトカ号事故の際には環境影響調査を担当。私たちの住む地域、国、地球の環境改善が進み、より美しい環境が次世代に引き継がれていくための活動が期待されます。

いしかわTOYP大賞歴代受賞者

主催／(社)日本青年会議所　石川ブロック協議会

'02 2002年度

金原　美佳（スポーツ福祉）

現役選手終了後、知的障害児の水泳指導に関わる。現在は知的障害者のヘッドコーチとして活躍。スペシャルオリンピックス日本のローカルトレーナーとして全国のコーチクリニックにも積極的に活動し、ボランティアの指導、育成にもあたっている。

佐竹　清良（ボランティア）

ツインバスケットチーム「ポッキーズ」監督。障害者が生きる喜びを感じ、社会で生きていく勇気と自信を持ってほしいと切望し、スポーツを楽しんでもらう機会を与えるだけでなく、社会との接点を保っていけるように活動している。一人でも多くの障害者に勇気を与え続けると共に、地域との交流の輪をさらに広げる事で「障害者の立場に立ってのバリアフリー社会」を成し遂げるため多大な貢献が期待される。

子母澤　類（文芸）

地元金沢の歴史や風土を題材にしてエッセイや小説も数多く手がけ、現代女性の感性で人間の永遠の課題である男女の恋愛をテーマにした作風は読みやすく、一般読者に広く受け入れられており、石川のみならず全国へのステップを着実に歩みつつある。

鶴見　彩（音楽）

1996年第65回日本音楽コンクールピアノ部門第2位となる。東京芸術大学大学院卒業後、ドイツ学術交流会に才能が認められて、カールスルーエ音楽大学(ドイツ)に留学する。ピアニストとして世界での更なる活躍が期待されると共に、地元石川でもピアノの裾野をさらに広げるためピアノコンサートの提供、後進の育成にあたっている。

松山　武司（伝統工芸）

山中塗の蒔絵師として活躍し、伝統である蒔絵の技法を用いて幅広く新しい「漆」の可能性を求めて、多くの素材に魅力を表現し、アクセサリーとして多くの作品を制作しており、漆アートデザイナーとしての活躍が期待されています。又、子供たちに「漆」の素晴らしさや奥深さを感じてもらい「漆」の魅力を知ってもらうために草の根の活動を行っている。

'03 2003年度

大野　由加（音楽）

4歳でピアノを習い始め、1986年、PTNAピアノコンペティション全国大会に入賞。チャリティーコンサートを開催したり、社会貢献にも活動されています。「音楽には人の心を強く揺さぶる力があります。」大野さんは言います。今後のますますの活動が期待されます。

長田　竜太（農業）

1998年、農林水産省中国農業試験場国有特許実地契約を取得。1999年に発売された「玄米ギャバ液」は2003年までに100万本近いセールスを記録。今の夢は産業廃棄物である米糠から高濃度小麦を製粉し、栄養価の優れたパンをつくること。パンの完成を応援したいと思います。

桐本　泰一（まちづくり）

地元の木地師、塗師、蒔絵師たちと「ギャラリーわいち」を開店。漆器関係だけでなく、異業種からも注目され、県内外より多くの人が来店される魅力的な店舗である。今後人と人との交流の輪がさらに大きくなり、産地活性化へとつながっていくと期待される。

竹島　敏也（芸術）

地元のお祭のために絵を描くようになり、エアーブラシに興味を抱き、独学でその技術を学びました。地元メディアやTV番組「TVチャンピオン」に出場。2003年からはHowto本を手作りし、全国へ向けて販売を行っています。エアーブラシの普及の一端を担うようなすばらしい活躍が期待されます。

森山　奈美（まちづくり）

多くの講演やシンポジウムのパネリストをつとめ、参加型のまちづくりを実践。今後のまちづくりに欠かせない新しいタイプの専門家として協働コーディネーターの能力を高め、専門家のネットワークと育成に取り組むほか、市民・行政・企業の協働まちづくりのしくみをつくる活動に意欲的で、今後の活動が期待される。

'04 2004年度

佛田　利弘（農業）

食と農が近づく必要性を訴え、農業や地域、食や健康、そして生活のあり方をテーマに次世代に向けた価値作りを活動として展開する。農業が地域や社会、そして生活者と関係づくること、そしてそれがエネルギーの源泉になることを願っている。

竹中　健也（ボランティア）

日本乗馬療育インストラクター養成学校で乗馬療育を学び、故郷の珠洲に北陸初の身体障害者用の乗馬施設を開設。動物、馬などのふれあいを通して、障害者乗馬の普及に努め、また、小学生への乗馬やひき馬体験を行い、動物とふれあうことの楽しさを伝えています。

茶谷　公樹（工芸）

三味線太夫に魅せられ、習い始めて4年で曳山芝居の浄瑠璃の太夫として舞台に立つ。舞台はもちろん、曳山の組立、芝居の運営、公演、口上と小松町人文化保存の核となって活動。文化財曳山芝居の維持・町衆文化の発展に今後ますますの活躍が期待される。

岡田　謙治（杜氏）

28歳の若さで杜氏となり、全国新酒鑑評会において97年、98年に連続で金賞を受賞。高度な技術を要する能登杜氏の技を次世代へつなぎ、また、能登全体における能登杜氏の里として地域振興に関しても、大きな役割と期待が持たれている。

間島　円（伝統工芸）

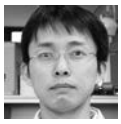
金沢伝統工芸の一つ、金沢和傘の職人。金沢和傘の魅力の継承と新たな世界を開き、金沢和傘の発展を考え、より多くの人に広めるために活動し、2004年1月に初の個展を開いている。今後のさらなる発展・活躍が期待される。

石川TOYP倶楽部特別賞

ニューヨーク・ヤンキース
松井　秀喜

1987年　根上中学校野球部入部
1990年　星稜高校野球部入部
1993年　巨人軍入団
2003年　ニューヨーク・ヤンキース入団

'05 2005年度



有谷　秀明（その他）

障害者の立場に立って、要求を受け止め時代の流れにあったものを開発しようというコンセプトで活動している技術者。使う人が本当に必要とし役立つものを作っていくという姿勢は、次代を担う技術者として大いに期待されます。

岡部　将英（伝統工芸）

三味線造りに魅力を感じ、すばらしい伝統工芸である三味線造りを絶やしたくないという一心で、義父である福嶋十一氏に弟子入り。金沢の三味線作りという伝統技術を身につけることだけでなく後世まで伝え守っていくという強い使命感を持っています。

徳山　華代（スポーツ福祉）

幼いころからのバレエの経験と実体験を活かし、バレエスタジオ「エコール ドゥ ハナヨバレエ教室」を開設。幼児から中高年と幅広く多くの人々にバレエを通じて得る舞踊の楽しさ、すばらしさを教えています。また、バレエの普及に取り組む一方、バレエを通じた青少年育成に力を注いでいます。

東山　春充（ボランティア）

20歳の時に不慮の事故に遭い不自由な体になるが、不屈の精神で一念発起し、障害者としてより「人」としてきちんと社会参画をしていくことを目標に地域の小中学校においての講演。原画展やカレンダー製作、インターネットなどで「笑顔の種まき」をモットーとした交流活動を行う。

藤間信乃輔（舞踏）

小学3年より藤間勘紫乃師より日本舞踊を学び、国際的に活躍する一方、積極的に舞踊を広めている。さらに若い世代の育成にも励んでおり、保育園、大学でも日本舞踊の指導にあたっており、日本古来の美徳とされている礼儀作法の大切さを日本舞踊を通して、伝え、教えている。

いしかわTOYP大賞歴代受賞者

主催／(社)日本青年会議所　石川ブロック協議会

'06 2006年度

今森　達也（環境）

主にクマタカの生息・分布状況を調べ、鳥類を通しての自然環境の変化を探るため学会・シンポジウムなどに参加・後進の育成などに務める。

中井　麻樹（芸術）

1999年おしみず漁火乱舞隊結成。2000年同チーム、ダンスリーダー就任。2000～2004年YOSAKOIソーラン日本海全大会大賞受賞。YOSAKOIソーラン日本海各地にて普及活動。2004年THE日本海&北國新聞結成。ダンスリーダー就任。2005年YOSAKOIソーラン(本選)一次審査委員賞受賞。2006年YOSAKOIソーラン(本選)札幌市長賞(第５位)受賞。

北岡　幸美（ボランティア）

署名活動、後援会活動、患者代表として国に陳情。

吉田　貴宏（スポーツ）

石川県にスポーツ文化を根付かせることを目標にNPO法人を設立。サッカークラブであるフェルヴォローザ石川県白山FCはJリーグ昇格を目指し活動中。

藤田　晶子（文化）

加賀にある蔵元のひとつ、能登杜氏の一人・農口尚彦氏が醸すお酒の蔵元として有名な「鹿野酒造」に、全国でも数少ない女性蔵人として働く。

石川TOYP倶楽部特別賞
女優・声優
田中　美里

1996年　東宝シンデレラコンテスト審査員特別賞受賞によりデビュー
1997年　NHK『あぐり』主演

'07 2007年度

角花　洋（文化）

県指定文化財である奥能登珠洲の地に、揚げ浜塩田の６代目塩士として、祖父や父から製法を学び、伝統を守り受け継ぐため励んでいる。

寺地　淳司（ボランティア）

平成17年８月のNPO全国フォーラムにて災害時のボランティア活動について学び、これを契機に「わじま災害ボランティアネット」を設立。平成19年3月に発生した能登半島沖地震では、輪島市災害ボランティアセンターの立ち上げから運営まで携わった。

中山　昌果（工芸）

石川県の珠洲と九谷の土を独自の配合でブレンド、珠洲焼きで用いる『いぶし焼き』の焼成方法で独創的な作品を制作

目細　由佳（工芸）

加賀鮎毛鉤職人。伝統工芸を守っていこう、との想いから実演や体験学習、毛鉤を利用したアクセサリーを制作など幅広く活動。

安田　暁仁（まちづくり）

10年以上続くバイクイベント「アメリカンサミット石川」を主催。毎年県内外から700人のハーレー愛好家が愛車とともに集まる。また07年は能登復興を願って、日本最大のバイクイベント『バイブズミーティング』を珠洲に誘致した。

'08 2008年度

金七　聖子（地域振興）

奥能登ウェルカムプロジェクト推進協議会に参加し、能登丼プロジェクトの地域リーダーとして能登丼を通じて能登の活性化に励む。

見附　正康（工芸）

高校卒業後、石川県立九谷焼技術研究所へ入学。在学中に九谷焼伝統的技法赤絵細描に出会い、楽しくこの仕事ができたらと卒業後、福島武山先生に師事。平成19年独立、自分なりの作品づくりに専念している。家庭画報を始め多くの全国誌に紹介されている。

金丸　雄介（スポーツ）

幾度の苦難を乗り越え、世界選手権日本代表に返り咲き、執念で世界柔道選手権３位入賞を果たす。同時に北京オリンピック日本代表枠をとり、2008年国内最終選考会も、しぶとい柔道スタイルで優勝し念願の北京オリンピック代表を勝ちとり、石川県民に夢を与えた。

武藤　一樹（農業）

羽咋市菅池町にて築70年の農家を改造し、農業に密着したカフェ：神音カフェを経営。更に中核的人物の不足により話途中になっていた農芸品をプロデュース販売する株式会社神子の里立ち上げに孤軍奮闘する。

高　利充・博子（農業）

能登島にある、東京ドーム約３個分の広大な土地に、約100品目の無農薬・有機野菜を栽培する農業に従事している。農薬はもちろん化学肥料も一切使用しない、完全な「循環型農業」で栽培された野菜は、ミシュランガイド掲載の都内有名レストランで使用されるなど高い評価を得ている。

'09 2009年度

岩城　博之（音楽）

加賀太鼓保存会の代表である父の影響で5歳から和太鼓を始める。数々のイベントに参加。ジャンルを超えた音楽のコラボレーションにより、様々な世代の方々が互いに交流し音楽を楽しむ環境を作り、若い人たちがプロのミュージシャンを目指すきっかけとなる機会を企画し、「太鼓王国いしかわの復活」また「この地域の活性化」に貢献している。

室谷　文音（芸術）

叙情書家でもある両親の影響で2歳の時、おはしを持つより早く筆を持ち初の作品をつくる。5歳で婦人誌「ミセス」の扉ページを1年間連載する。現在、文音のアトリエ桃花林を構え、展覧会や作品を通して一人でも多くの人に石川県の存在、奥能登の存在を知ってほしいと「墨色が世界のかけ橋に」なるようがんばっている。

宮本　周司（地域振興）

能美市特産品の加賀野菜「加賀丸いも」の規格外品を活用した特産品焼酎を官民一体となって開発。取得が困難な芋焼酎製造免許を石川県で初めて取得し、地域の資源に新たな価値を創造し、地産地消と資源循環型の活動を推進し、かつ地域経済活性化に資する事業へ展開させている。

須原　水紀（スポーツ）

能登島ダイビングショップを営み、能登のダイビング事業の開拓を進めながら、海の水中ガイドをしている。能登半島が全国的に、また世界的にダイビングエリアとして認知されるよう励んでいる。

宮川　真也（まちづくり）

竪町で「NPO法人タテマチ大学」設立。中心商店街の活性化と若者の目的意識の向上について授業等を通して伝え、若者の気づきと学びの機会を創出している。タテマチ大学では地元で活躍する大人たちの授業を無料で受講でき、部活動やゼミを開設するなど学びの場、交流の場を提供し賑わいを創出している。

いしかわTOYP大賞歴代受賞者

主催／（公社）日本青年会議所　石川ブロック協議会

'10 2010年度

浅井　暁子（音楽）
地元の文豪作品を基とした楽曲の創作活動を行っており、一方で公教育の現場に生の音楽を届けるためのコンサートや出前授業を企画･実施している。

加藤　大地（洋菓子職人）
石川県の食材を使用したケーキ作りと、それによる地元食材のブランド向上を行っている。

喜多　重光（演劇・演出）
京都・群馬・新潟などで、その土地の戦国時代の歴史と文化をストーリー調に仕立てた演劇の脚本や演出・出演した経験を元に、現在は有志と共に演劇集団シアタースカイを立ち上げ主宰。

赤石　大輔（環境）
能登でキノコを軸に里山を再生したいという思いで、能登半島里山里海自然学校を設立。現在は里山のキノコと昆虫の研究、また自然学校の指導員を兼ねて、指導員育成にも注力している。

元屋　和則（農業）
都会生活をやめ農業を志し長野県松本市の養成機関にて有機農業を学び、現在インターネットを利用して食の安全を考え、無農薬野菜を販売している。

'11 2011年度

宇野　陽介（BMX）
1998年アメリカで行われたプロBMXコンテストで日本人初の優勝。BMXの大会に出場したり携わる事で、石川県をBMXの街として発信。また、BMXを日本のスポーツ文化として広めていく活動を行っている。

上出　恵悟（九谷焼・工芸）
九谷焼の魅力を多くの方へ発信するために、展覧会やイベントを積極的に企画したり、「KUTANI SEAL」というワークショップや異業種とのコラボレーションを通し、九谷焼の可能性を切り開いている。

西田　上（九谷焼）
「九谷塾」に伝統工芸と現代を繋ぐプロデューサーとして参加。異業種とのプロジェクトも進め、いしかわの伝統工芸の底力を見せられるような作品づくりをめざしている。

大野　長一郎（炭焼き）
能登の里山里海で地域活性を図っていくために、シンポジウムのパネラーや学校での講演、視察の受け入れなどを行って里山の魅力や価値を伝えている。

柴野　大造（ジェラート職人）
能登から発信するジェラートの新たな可能性にチャレンジし、国内外に「石川県産ブランドの創出」を図っている。地元食材を使ったジェラートづくりを通し、食育・地産地消の大切さを伝える活動もしている。

'12 2012年度

北形　謙太郎（青果物小売販売業）
「石川から世界に食を発信する」を目標に、城下町金沢が育てた加賀野菜の魅力をテレビ・ラジオ・インターネット・講演会などを通じて広く発信している。

田上　諭史（まちづくり）
大学在学中に地域活性化に深い関心を持つ。宝達志水町に入庁後、オムライスの生みの親が宝達志水町の出身であることに着目し、この地が「オムライスの郷」として全国的に認知されるよう尽力している。

宮川　真治（農業）
原材料を金沢産にこだわった椎茸を中心とした百万石ブランドの野菜で全国展開。過疎地の高齢者雇用、小学生への食育教育、また、椎茸収穫後の「廃菌床」を活用し、循環農法を構築するなど、常に社会的貢献を意識して活動している。

村田　彦二（殺陣師）
加賀百万石、城下町金沢として全国に名が通っている石川県の魅力を伝えるべく、殺陣師侍として全国の催事や地元のまつりなどで「侍文化の継承と発信」を行っている。

安本　知子（地域振興）
白山商工会に入会後、白山市の地域活性を目的に、山のもんづくしの健康ごはん「白山百膳」を企画。自ら広報の先頭に立ち、元気と笑顔をモットーに田舎のすばらしさを発信し続けている。

'13 2013年度

今井　　豊（地域活性）
能登へのリピーターを作るため観光とは違った里山里海文化の体験ツアーを実施している。県外から珠洲へ移住してきたからこそ分かる客観的な目線で外から来る人に伝えてゆきたいと思い活動している。

川原　伸章（新農業）
過酷な状況を乗り越えて、現在では県内外合わせて７人を雇用する会社を運営している。農業に職業としての「安定」と「魅力」を創出し、次の世代に農業を伝えていく活動をしている。

木村　千裕（金沢素囃子）
曾祖母から代々続く邦楽一家のなかで生まれ育ち、自然と伝統芸能に触れ合う中でこの道に進むことを決意。現在は邦楽演奏家（主に邦楽囃子方）として、石川を中心に様々な土地で演奏活動を行っている。

七浦　禎蓮（観光ボランティア）
結婚を機に輪島へ引っ越した後、工芸、観光、文化、食などの良い資源があふれる輪島をもっと世界の人々に知らせたいと考え、インバウンド事業に歩み出した。言語力を生かしながら、輪島や日本と外国への橋渡しもしている。

古川　真美（地域活性）
珠洲の子の方が、実は自然体験が少なく、身近な植物やいきものに関しての興味関心も薄いことに着目し、自身のネットワークを生かし、小学校で能登の魅力を体感する企画を実施。地域との交流を図りながら能登の里山の素晴らしさを伝えることに力をそそいでいる。

TOYP大賞歴代受賞者（2001年より人間力大賞に名称変更）

主催／（公社）日本青年会議所

'88 1998年度

坂室　茂（地域）

推薦：(社)羽咋青年会議所
地域の活性化と青少年の健全育成を目的に、千里浜海岸を利用し、ちびっ子駅伝を企画運営した。能登半島の活性化のリーダー的役割を果たし、今後の活動が期待されている。

'90 1990年度

近藤　守（福祉）

推薦：(社) 金沢青年会議所
養護学校を卒業した青年障害者に生き甲斐を持たせてやりたいという願いを“ひろびろ共同作業所”という手作りの障害者福祉施設を作る運動を通して実現した。新しい福祉のニューリーダーとして期待されている。

'91 1991年度

坂本　秋央（工芸）

推薦：(社)金沢青年会議所
金沢の伝統工芸である二俣の紙衣帯作家として、昭和54年以来活動を続け、その紙衣の帯を200年ぶりに再現した。「もてなしの心」と題して、紙衣・箸置きなど和紙の新しい商品展開に力を入れている。

'93 1993年度

藤岡　良憲（学術）

推薦：(社)金沢青年会議所
科学捜査研究室員という法医鑑定業務の中で、微量の血痕試料から血液型識別をするという世界的発見により、現在の複雑巧妙化している刑事事件解決に大いに貢献した。警察活動を通しての住み良い街づくりに貢献している。

'01 2001年度

板倉　美紀（スポーツ）

推薦：(社)羽咋青年会議所、石川ブロック協議会
再起不能といわれた不慮の事故から奇跡の再起を果たし、事故後わずか七ヶ月で競歩選手として国体石川県予選に優勝。国内トップクラスの選手として競技を続ける一方、壇上に立ち自らの希有な選手人生を中高生に語りかける。有能な指導者としての将来にも期待が持たれる。

人間力大賞・日本青年会議所会頭 特別賞

'07 2007年度

北岡　幸美（ボランティア）

推薦：(社)輪島青年会議所
進行性化骨筋炎（FOP）の特定疾患認定を求める署名活動を中心に講演活動や広報活動を展開する。またFOP患者を含めどんな人も明るく生きていける社会へと変革するために、講演会やホームページ等を通じて精力的な活動を行っている。

'12 2012年度

登天ポール（ボランティア）

推薦：のと青年会議所
人権教育メッセンジャーとして活動。いじめ撲滅・自殺反対を掲げ、歌と踊りを交えて「思いやりの心を育み、生きるとは何か」を訴えかける講演活動を行い、苦境の若者たちを勇気付けている。

地域先端技術の活性化に取り組んでいます。

北陸電力

北陸電力は、地域の先端技術を活かした新産業の創出・育成に向け、産学官の連携を進めています。

■金沢大学との産学連携推進活動

産学連携の推進に関する協定に基づき、実用につながる学術研究の振興と研究成果の社会活用推進、技術者育成等を目的とし、共同研究開発、技術教育とそれに係る人的な交流、インターンシップの受け入れ・企業情報提供等の学生支援を行っています。

産学連携推進会議

配管資材・住宅設備機器総合商社

小松商事株式会社

本　　社　〒920-0041　石川県加賀市永田本町チ15番地1　TEL:076-263-5428　FAX:076-223-4039
金沢南支店　〒921-8163　石川県金沢市横川6丁目92番地　TEL:076-247-3121　FAX:076-247-3177

小松商事グループ／七尾・丸一商事(株)・(株)北陸小松サービス・北陸小松(株)

あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP

タフ TOUGH
タフな安心を、あなたに。

いろんな保険を、ひとつのシリーズで。
わかりやすくて頼りになる保険です。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社　〒150-8488 東京都渋谷区恵比寿 1-28-1TEL 03-5424-0101（大代表）

使って得するリサイクル部品 !!
新品・中古・リビルト　自動車部品販売

有限会社　ツクダ自動車

NGP GROUP
全国ネットのNGPグループ
有限会社 ツクダ自動車
石川県白山市相川町1824番地
TEL(076)276-1593　FAX(076)274-8033

ダイワの
NISA
ニーサ
（少額投資非課税制度）

大和証券
Daiwa Securities
金沢支店
〒920-0869
金沢市上堤町3番25号
（南町バス停・日本生命ビル前）
電話 076-262-4211

すぐれた製品と技術で社会に貢献する

土　木・環　境　資　材
水道ガス・設備・住宅　資材

株式会社 辻さく

取締役社長　辻　亮　一

営業　本部　金沢市増泉5丁目1番30号　☎(076)243-7731㈹
小松営業所　小松市長崎町4丁目80　☎(0761)21-7077㈹
能登営業所　鳳珠郡穴水町字此木8-1-5　☎(0768)52-8585㈹
富山営業所　富山市上赤江町2丁目2番8号　☎(076)432-5310㈹

MUROTO
株式会社室戸鉄工所

■本社／管理部・製造部
〒923-8603　石川県小松市串町工業団地 1-3
TEL0761-44-2111　FAX0761-44-2357
URL　http://www.muroto.co.jp
■コマツ加賀
〒923-0866　石川県小松市白嶺町 2-38
建機販売事業部
TEL0761-24-2323　FAX0761-24-5711
自動車サービス事業部
TEL0761-24-5848　FAX0761-24-6965

豊かな技術で
未来を創造する

コンクリート二次製品総合メーカー
(L型擁壁・無騒音VS側溝・大型ブロック)

セキサンピーシー株式会社

金沢営業所　金沢市畝田西2-25
TEL 076-266-1550㈹
七尾営業所　七尾市万行町5部129番地
TEL 0767-53-1204㈹

KDT

土木建設機械レンタル･販売、土木資材総合卸

株式会社小松土木通商

■本　社／小松市上小松町丙 97-1
TEL(0761)23-0135㈹ FAX(0761)23-0128
■石川営業所／白山市徳丸町 301
TEL(076)275-7155㈹ FAX(076)275-7156
■加賀営業所／加賀市加茂町 320-1
TEL(0761)77-2102　FAX(0761)77-2103
■手取営業所／白山市吉野壬 58
TEL(076)255-5715　FAX(076)255-5219
■セフティー石川／能美市小長野町ホ11-1
TEL(0761)57-4747　FAX(0761)57-4748
■トレンチシステムセンター
TEL(0761)23-6494

空調・給排水衛生・消防設備工事点検
電気(省エネ工事等)・昇降機・温泉設備等
設備設計、施工、メンテナンス

有限会社白石メンテナンス

922-0421
石川県加賀市冨塚町チ82-3
TEL:0761-74-8599
FAX:0761-74-7061

地域の未来を創る
コンクリート2次製品総合メーカー

〒920-0056 金沢市出雲町イ260番地

株式会社 ホクエツ北陸

TEL 076-233-1818　FAX 076-263-2670

小松工場　0761-47-5050
金沢工場　076-282-5335
穴水工場　0768-56-1303

池田建設工業株式会社

925-0153
石川県羽咋郡志賀町清水今江ル19-2
TEL:0767-32-4141
FAX:0767-32-0387

NAGASHIMA CLINIC

内科・胃腸科・外科
ながしまクリニック

院長　永嶋清和
〒924-0024 石川県白山市北安田町972番-1
TEL.(076)275-1115　　FAX.(076)275-1028

～より快適に・より心地よく～
住まいづくりのお手伝いを致します。

総合建設業・新築
増改築・リフォーム

アオイ建設株式会社
リフォーム事業部 リファインななお

aoi

本社：〒926-0021 七尾市本府中町ル部 45 番地 5
TEL 0767-52-2502　FAX 0767-52-2522
URL www.aoi-kensetsu.jp E-mail info@aoi-kensetsu.jp

建設資材卸　油脂製品卸　地盤調査・地盤改良

SAKAI GROUP

有限会社
坂井商事

石川県加賀市箱宮町ヤ51
TEL：0761-74-8226
FAX：0761-74-6179

㈲タナカ企画　石川県知事登録旅行業 3-242

ツーリストクラブT&T

いい旅しよう

加賀市山代温泉幸町25番地の1
TEL：0761-76-1366
FAX：0761-77-4819

食品模型　企画・製作工房

有限会社
みやもと

〒922-0421 石川県加賀市冨塚町ユ1番地の10
TEL 0761-74-0086　FAX 0761-74-3328

TABI
旅くらぶ四季彩

(株)旅くらぶ四季彩
加賀市合河町ロ47
TEL：(0761)74-1250
FAX：(0761)74-1360
http://tabiclub.jp/

～環境と暮らしを守る～

TOSMAC

株式会社トスマク

923-0995　石川県小松市安宅新町ナ 37
TEL:0761-23-0088　FAX:0761-23-0158
http://www.tosmac.com

NISSIN

株式会社 日進自動車

石川県加賀市中代町ル63-1
TEL (0761) 77-3030
FAX (0761)77-3400

MAEJYU SHIKO

株式会社まえじゅう漆器

922-0274 石川県加賀市別所町1-56
TEL:0761-77-1424　FAX:0761-77-2161

浅井克樹
税理士事務所
923-0303 石川県小松市島町ヲ 100 番地 5
TEL:0761-44-4944FAX:0761-44-5889
e-mail:info@aud.co.jp

片岸木工所
〒922-0242 石川県加賀市山代温泉50-4番地
TEL●0761-77-6008
FAX●0761-77-6018

車のことならお任せ下さい！
ダイハツショップ 加賀
有限会社 友星自動車
TEL (0761)74-8230(代)
〒922-0326 石川県加賀市桑原町ト62-1
(国道8号線桑原交差点角)

杭打ち・杭抜き工事
土木・建築工事
株式会社 豊 商
【本社】白山市相川町1227
TEL 076(276)1071 FAX 076(276)9650
【自動車サービス部】白山市田中町177-1
TEL 076(276)1070 FAX 076(276)1197

気持ちのいい家は木持ちがいい。
総合建設業
株式会社 シモアラ
TEL (0761)77-2133
〒922-0262 加賀市柏野町イ51番地
FAX (0761)77-2134
Email info@shimoara.co.jp
シモアラ 検索

焼肉茶屋
恵比須
えびす
松任店
石川県白山市番匠町216-1-2
TEL:076-276-2939
FAX:076-276-2922

2014年度　公益社団法人日本青年会議所
北陸信越地区　石川ブロック協議会
〒923-0801　石川県小松市園町二の１ 小松商工会議所
TEL.0761-22-2743　　FAX.0761-23-2778

ブロック会長　江口　　充
会務担当副会長　中村　謙吾
石川TOYP委員会
委員長　金本　基春
副委員長　杉本　祐一　　表　幹也
運営幹事　清田　典廣
委員　瀬戸　航　　岩崎　協　　坂下　充　　番谷　豊　　宮川　輝之
西浦　雅人　　中村　豪人　　黒橋　建介　　向井　秀治　　安田　卓司
南井　侑貴　　高田　樹春　　戸田　喜浩　　川上　友実

JCI
TM